

最近見た昭和20年代の映画

私が映画好きになったのはどうやら私が生まれ育った環境にその遠因があるようです。私の父は宮城県石巻の農家の次男坊で故郷を出て神奈川県警察の警察官となり、昭和10年頃に小田原警察署に異動し、万年4丁目で借家住まいを始めました。私はその家で昭和15年に生まれました。昭和20年代のあの近辺には「復興館」「富貴座」などの映画館がありました。父は海岸近くにあった銭湯「清水湯」によく私を連れて行き、帰りに「復興館」や「富貴座」に寄って映画を見るのが習慣のようになっていました。金を払ってチケットを買う訳ではなく、入口にいる「モギリ」にちょっと手を上げて挨拶して入るいわゆる「顔パス」です。映画館主にしてみればいつも街を警邏してくれている「山本巡查部長」なので黙認してくれたのでしょう。しかし、私はそのおかげで沢山の外国映画を見ることができました。あの頃映画に親しんだおかげで後年の映画好きの私が出来上がったのだと思っています。今日はあの頃昭和20年代の映画についてお話をさせてください。

1. **若草物語 Little Women** 1949年製作

日本公開は同年の1949年12月。小田原市ではおそらく翌1950年(昭和25年)に公開されたのではないかと思います。いずれにしても私が小学校の3年生か4年生の頃でしょう。私はこの映画を見てはおりませんが、当時この映画で末っ子役を演じたマーガレット・オブライエンのことは何故か心の奥に刻まれました。巷ではむしろ三女役を演じた当時10代のエリザベス・テイラーの方が話題になっていたように記憶しています。

ごく最近この映画がNHKBS放送で放映されたのでDVDに録画しておき、家でゆっくり再生して鑑賞しました。この映画の原作はルイザ・メイ・オルコットの小説「Little Women」で、過去に何度も映画化されており、サイレント時代の2作を含めてこれが4作目だそうです。アメリカ東部の町コンコードのマーチ家にはメグ、ジョー、エミー、ベスの4姉妹がいました。映画は小説家志望の次女ジョーを語り部のようにして展開します。キャストは長女メグにジャネット・リー、次女ジョーにジューン・アリソン、3女エミーにエリザベス・テイラー、4女ベスにマーガレット・オブライエン。本稿の主題はこの映画について述べるのではなく、4姉妹を演じた女優について私の思いを述べることにあります。

ジューン・アリソン 1917年生まれ。私が彼女の名前を覚えたのはジェームズ・スチュアートと共演した「グレン・ミラー物語」(1953年)でした。

ただ面食いの私は美人とは言えない彼女にはあまり関心がなく、彼女の他の出演映画については殆ど知識がありません。ゴメンナサイ、アリソンさん。

ジャネット・リー 1927年生まれ。「サイコ」(1960年)で無残に殺される役でゴールデン・グローブ賞を受賞。彼女の作品で見た記憶があるのは「裸の拍車」(1953年)、「底抜けニューヨークの休日」(1954年)、「黒い罌」(1958年)、「動く標的」(1966年) テレビドラマ「刑事コロンボ 忘れられたスター」(1975年)。3番目の夫トニー・カーティスとの間にできた娘は女優**ジェイミー・リー・カーティス**で「ハロウィン」などに出演しています。私はかなり長い間「若草物語」にあまり関心がありませんでしたがこの作品に彼女が出ていることを知り、22歳頃の彼女を見ることができて大満足です。

エリザベス・テイラー 1932年生まれ。言わずと知れた「ハリウッド黄金時代」の美人女優。但し、面食いの私ですが特に好きなタイプという訳ではありません。見た記憶のある作品は「花嫁の父」(1950年)、「ジャイアンツ」(1956年)、「予期せぬ出来事」(1963年)、「クリスタル殺人事件」(1980年)

マーガレット・オブライエン 1937年生まれ。人気子役だったそうですが、1951年に映画界から引退。その後はテレビドラマや舞台などに出演。「若草物語」では末っ子で繊細なベスの役で、ボランティア活動中に感染した猩紅熱が原因で夭折してしまう薄幸の少女を演じています。

上記4女優の中で私が一番好きなタイプは長女を演じた**ジャネット・リー**です。マーガレット・オブライエンも好きなタイプですが銀幕で活躍した期間が短すぎます。もっといろいろ作品を残して欲しかったと思っています。



写真は左からジューン・アリスン、ジャネット・リー、エリザベス・テイラー、マーガレット・オブライエン



若草物語の四姉妹。左からベス、メグ、ジョー、エミー

2. 子鹿物語 The Yearling 1947年製作

日本公開は1949年（昭和24年）。私はこの映画を映画館ではなく、**小学校の学習の一環として行われた試写会**で見ました。試写会場は学校ではなく、確か当時の小田原市立図書館だったように記憶しています。

フロリダ州北部の荒れ地で未開の原野を開拓し、農作と牧畜で暮らしているバクスター一家の物語です。両親と息子の3人で暮らしています。飼っていた子鹿を通して命の大切さを教えてくれ、少年は大人になって行きます。この少年ジョディを演じた**クロード・ジャーマン・ジュニア**（1934年生まれ）は日本の女性ファンの心を射抜いたようで私の姉（昭和9年、1934年生まれ）も「クロード！クロード！」と大騒ぎでした。ネットで検索して見るとまだ健在のようです。この映画には私が一番関心のある「女優、それも美人女優」が全く出ていないので当時も今もそれがちょっと不満です。ただ一家の大黒柱である父親を演じた「**グレゴリー・ペック**」はその後最も好きな役者になりました。2003年6月中旬彼の訃報を聞いて当時盛んにEメールのやり取りをしていた小田高11期の辰巳グループ（佐々木洋、中澤秀夫、水口幸治、故・藤井暉生、故・望月郁文）に「**追悼・グレゴリー・ペック**」と題したメールを送ったくらいです。



左から「子鹿物語」の映画ポスター、グレゴリー・ペック（父親役）、ジェーン・ワイマン（母親役）、クロード・ジャーマン・ジュニア（子役）